

# 日本語学習者による動詞の誤った語形について

－KY コーパス・YNU 書き言葉コーパス

・日本語学習者作文コーパスから－

水 越 隆 之

## 1. はじめに

以前、勤務先の日本語学校で、ある中国人日本語学習者が自分の書いた作文を私に見せ、ある個所を示し、こう聞いてきた。「ここは直したほうがいいですか」。正しい言い方は言うまでもなく「ここは直したほうがいいですか」である。その学習者はその時点で1年10か月程度の日本語学習経験があり、旧日本語能力試験の1級レベルの能力を有していた。また、私が授業を担当した初級レベルのクラスに在籍する中国人学習者が、私からの質問に対する答えとして「週末は働きする予定です。」とノートに書いていたのを見かけたこともある。このような動詞の誤用は「書いてください」を「書きてください」としてしまう活用の誤りとは種類が異なるものである。

そこで、このような「和語動詞の連用形」<sup>1</sup>に「する」をつけるという誤った形について、それが日本語学習者に広く見られるものなのかどうか調査しようと思い至った。

本稿では、KY コーパス<sup>2</sup>、日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス<sup>3</sup>（以下YNU 書き言葉コーパス）、日本語学習者作文コーパス<sup>4</sup>を対象にした調査結果を示し、それについての考察を述べていきたい。

## 2. 先行研究

日本語学習者が使用する動詞に関し、金庭（2003a）はKY コーパスを用い、「日本

<sup>1</sup> 日本語の動詞は「和語動詞」と「漢語動詞」に分けられるが、本稿では日本語学習者が産出する「和語動詞」の形に注目するため、このように記す。

<sup>2</sup> KY コーパスの概要は「3. 調査対象」で述べる。

<sup>3</sup> 日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパスの概要は「3. 調査対象」で述べる。

<sup>4</sup> 日本語学習者作文コーパスの概要は「3. 調査対象」で述べる。

語学習者がどのくらい動詞を使用しているか、どんな動詞を多く使用しているか」について分析し、報告している。その中で、使用頻度が高かった動詞の例として「する」を挙げ、「初級では 1 位（1 人当たり 4.4 回）、中級では 1 位（22.4 回）、上級では 1 位（41.6 回）、超級では 2 位（48.8 回）となっている」ことを明らかにしている。しかしながら、「和語動詞（連用形）＋する」という誤った形で使用されている「する」については触れていない。また、金庭（2003b）は同じく KY コーパスを対象に韓国語母語話者の動詞の使用状況を分析しているが、「活用の誤用」は「言い淀み、言い直し」と一括りにしている。

鷺見（2014）は KY コーパスを対象として、中国語を母語とする日本語学習者がどのような和語動詞を使用しているかについて観察、分析している。その中で、「中級は誤用の比率が最も高く、「自他の混用」と「母語の知識の負の転移」を例に挙げている。

以上のように、日本語学習者が使用する動詞についての研究はあるものの、「和語動詞（連用形）＋する」という誤った動詞の形に関する先行研究は管見の限り見当たらない。本稿ではこのような誤った動詞の語形に注目する。

### 3. 調査対象

#### 3. 1 KY コーパス

まず、「和語動詞（連用形）＋する」という形が会話の中で現れたことに注目し、KY コーパスを調査の対象とする。

KY コーパスは中国語母語話者、韓国語母語話者、英語母語話者、それぞれ 30 名ずつの OPI<sup>5</sup>データを文字化したものである。レベルの内訳はそれぞれの母語話者において、初級 5 名、中級 10 名、上級 10 名、超級 5 名となっている。

#### 3. 2 YNU 書き言葉コーパス

会話ではその場で文を組み立て、発話しなければならず、文法的な誤りが出現しやすい状況であると考えられる。そこで、文を産出する前に考える時間をとることができる作文も調査対象に加えることとする。作文に「和語動詞（連用形）＋する」という形が現れていれば、それを書いた学習者は常態的にその形を使用していると考えられるからである。

YNU 書き言葉コーパスは「日本人大学生 30 名と留学生 60 名（韓国語母語話者 30 名、中国語母語話者 30 名）に対し、12 種類のタスクを課すことによって得た計 1080

<sup>5</sup> Oral Proficiency Interview の略。「外国語の口頭能力を対面式（“face-to-face”）インタビューという手法によって測定するもの」。（鎌田 2009）

編の作文を、コーパスの形にまとめたものである」(金澤編 2014)。そして、韓国語母語話者と中国語母語話者の作文については、「タスクの達成」「タスクの詳細さ・正確さ」「読み手配慮」「体裁・文体」の四つの観点から評価がなされており、それぞれ上位群(10名)、中位群(10名)、下位群(10名)の三つのグループに分けられている。

### 3. 3 日本語学習者作文コーパス

上の YNU 書き言葉コーパスで調査対象となっている学習者は、「大学の講義を受けることができるレベルである」(金澤編 2014)。そして、60 名のうち 45 名が日本語能力試験の 1 級、あるいは N1 に合格している。そこで、初級レベルの作文データが含まれる日本語学習者作文コーパスも調査対象に含めることとした。

日本語学習者作文コーパスは日本語学習者の作文データをコーパス化したものであり、初級から上級の日本語学習者 304 名の作文データが収録されている。レベル分けは学習者に対し実施した文法テスト、文字語彙テストの結果を基になされている。作文のテーマは、①「外国語が上手になる方法について」と②「インターネット時代に新聞や雑誌は必要か」で、①については韓国語母語話者 89 名(初級 11 名、中級 44 名、上級 34 名)、中国語母語話者 103 名(初級 20 名、中級 56 名、上級 27 名)、②については韓国語母語話者 55 名(中級 6 名、上級 49 名)、中国語母語話者 57 名(中級 43 名、上級 14 名)のデータが収められている。

## 4. 調査結果

### 4. 1 KY コーパス

KY コーパスを対象にした調査結果を表 1 に示す。

表 1 KY コーパスにおける「和語動詞(連用形)＋する」の出現回数

(単位：回)

	中国語母語話者	韓国語母語話者	英語母語話者
初級レベル	1	0	0
中級レベル	6	1	0
上級レベル	4	1	2
超級レベル	0	0	0
合 計	11	2	2

以下に KY コーパスに出現した「和語動詞(連用形)＋する」の文例を挙げる。〈 〉内はインタビュー者の発話である。

なお、(2) については、「つくりできます」は「つくりします」を可能の言い方に変えたものだと思われることから、出現回数に含めた。また、(8) については、学習者が会話の他の部分で謙譲表現を用いていないことから、「おすすめします」の「お」が脱落した形ではなく、「すすめます」とすべきところを「すすめします」と言っていると判断した。

- (1) ええ、今まだ、あのちゃんと考えしませんです(中国語母語話者 初級 CNH01)
- (2) 大根おろしのあれポン酢、入れてあれわたし好きです、〈あーあーあー、そうですか、んー、なるほどねー〉簡単な、つくりできます(中国語母語話者 中級 CIL02)
- (3) あー、それは、〈うん〉お父さんの、仕事を手伝います(中国語母語話者 中級 CIM01)
- (4) あー、大変と思わないけどー、〈うん〉んー、普通より、責任もっていますと感じています(中国語母語話者 中級 CIM01)
- (5) あの、いつもわたしと、みなさん、この外国人です、〈はい〉だから、日本語は、悪いから、めんどくさいです、先生はいつも、どう、考えますか(中国語母語話者 中級 CIM04)
- (6) だから、ときどき、言葉の意味は、先生はわから、わかりません、〈ん、はいはい〉あの一そのとき、先生は、どう、どう、かん、どう、考えします(中国語母語話者 中級 CIM04)
- (7) あの一、今は、わたしは、なには、あの一さがし、なんか、してないから、そのまま、〈ええ〉はい、お待ちして、おります(中国語母語話者 中級 CIH03)
- (8) あの、西寧市は、あの一、夏はとても、もし行くなら、〈えー〉夏は一番すすめたいですね(中国語母語話者 上級 CAH02)
- (9) 5 分ぐらい、あの、遅れると、ちょっと、自分の、さきに、すいません 〈えーえーえーえー〉遅れてしまいました、よく、うん、謝りますね(中国語母語話者 上級 CAH02)
- (10) それで、話しーするうちに、〈うん〉いつも、まちがえます(中国語母語話者 上級 CAH02)
- (11) 私の時は、田舎でしたので、〈ええ〉はた、畑で手伝っていました(中国語母語話者 上級 CAH05)
- (12) んー私は、におんで、あー、たいがくへ、あー入りしたいです、(韓国語母語話者 中級 KIL01)

(13) んー、本当は隣の人じゃなくて、会社の人々と時々あって話すとか、いろいろなことをはなし、することが、することが好きです（韓国語母語話者 上級 KA04）

(14) パズルからの人とスリランカからの人と、中国からの人みんな、いろいろ話しました、あの識字について話、あの識字とほかの社会的な問題の、あのつなぎについて話しました（英語母語話者 上級 EAH03）

（下線は水越による。以下同様）

表2は「和語動詞（連用形）＋する」を産出した被験者の母語、及びレベル別の割合を表したものである

表2 KY コーパスにおける「和語動詞（連用形）＋する」を産出した学習者の割合

	中国語母語話者	韓国語母語話者	英語母語話者
初級レベル	20%	0%	0%
中級レベル	40%	10%	0%
上級レベル	20%	10%	10%
超級レベル	0%	0%	0%

表1、表2から、「和語動詞（連用形）＋する」という形の使用は、初級では少なく、中級、上級の学習者、その中でも特に中国語母語話者に多く見られる。超級では中国語、韓国語、英語、いずれの母語話者においても一例も見られない。

「和語動詞（連用形）＋する」という形で産出された動詞は、「考える」「作る」「手伝う」「感じる」「さがす」「勧める」「謝る」「話す」「入る」であった。その中で、「考える」は中国語母語話者2名が「考えする」の形で、「手伝う」は中国語母語話者2名が「手伝いする」の形で、「話す」は中国語、韓国語、英語母語話者、それぞれ1名ずつが「話しする」の形で使用していた。

#### 4. 2 YNU 書き言葉コーパス

YNU 書き言葉コーパスを対象にした調査結果を表3に示す。

なお、「先生の部屋まで伺います（韓国語母語話者 タスク1 上位群 K018）」のように、謙譲表現である「お伺いします」の「お」が脱落した形だと思われるものは除外した。また、「以上は私が最もすすめたい点でしたが、少しでもお役に立てればいいと思います（中国語母語話者 タスク7 上位群 C046）」という例があるが、この学習者は同じタスク中の他の部分で「1 番おすすめたいたいの」と正しい形を使用しているので、出現回数には含めなかった。

表3 YNU 書き言葉コーパスにおける「和語動詞（連用形）＋する」の出現回数  
(単位：回)

	中国語母語話者	韓国語母語話者
下位群	1	1
中位群	1	0
上位群	0	0
合 計	2	1

以下に YNU 書き言葉コーパスに出現した「和語動詞（連用形）＋する」の文例を挙げる。

- (15) 病院でつまらない時は自己の研究を考えし、必要があれば（中国語母語話者  
タスク 5 下位群 C026）
- (16) また台湾の街で、タピオカミルクティーを持ち歩きしながら、飲んでいる人  
もよく目にします（中国語母語話者 タスク 9 中位群 C005）
- (17) でも顔を見て話しするだけで、抱いたりするのはできませんでした。（韓国語  
母語話者 タスク 12 下位群 K019）

表4は「和語動詞（連用形）＋する」を産出した学習者の母語、及びグループ別の割合を表したものである。

表4 YNU 書き言葉コーパスにおける「和語動詞（連用形）＋する」を  
産出した学習者の割合

	中国語母語話者	韓国語母語話者
下位群	10%	10%
中位群	10%	0%
上位群	0%	0%

表3に示したとおり、「和語動詞（連用形）＋する」が使われた例はわずかであったが、上位群では出現しなかった。

「和語動詞（連用形）＋する」という形で産出された動詞は、「考える」「持ち歩く」「話す」であった。

#### 4. 3 日本語学習者作文コーパス

日本語学習者作文コーパスを対象にした調査結果を表5に示す。

なお、「しかし、現実は今でも新聞と雑誌は人類の伝え工具の中に大切な部分を占めておる。(CG141)」は「占める」の終止形を「占めする」ではなく「占めす」とした可能性が考えられるため、出現回数には含めなかった。

表5 日本語学習者作文コーパスにおける「和語動詞（連用形）＋する」の出現回数  
(単位：回)

	中国語母語話者	韓国語母語話者
初級	1	0
中級	1	1
上級	2	3
合 計	4	4

以下に日本語学習者作文コーパスに出現した「和語動詞（連用形）＋する」の文例を挙げる。

なお、(19)については「さがしできて」が「さがしして」を可能の言い方に変えたものだと思われることから、出現回数に含めた。

- (18) 断向とか、重音も聞き取りし、首の中で語感があった。(中国語母語話者 上級 CG056)
- (19) たとえインターネットによっていろんな情報がさがしできても、(中国語母語話者 中級 CG106)
- (20) 外国人友達と話しすれば、自然に彼の飲食、衣服、歌、踊りなどの関して、(韓国語母語話者 中級 KG025)
- (21) 私の勉強の足りなさを思いしてからは、もっと真面目にやるようになった。(韓国語母語話者 上級 KG051)
- (22) 私は人と会って話しするのが楽しい。(韓国語母語話者 上級 KG058)
- (23) けいさつをよんでつかまないとだれもあやまりしなく、せきにんを迫ることである。(韓国語母語話者 上級 KG101)
- (24) 真剣に感じする。(中国語母語話者 初級 CG071)
- (25) 地球に生きているわれわれが考えすべき課題だと思う (中国語母語話者 上級 CG105)

表 6 は「和語動詞（連用形）＋する」を産出した学習者の母語、及びレベル別の割合を表したものである。

表 6 日本語学習者作文コーパスにおける「和語動詞（連用形）＋する」を産出した学習者の割合

	中国語母語話者	韓国語母語話者
初級レベル	5%	0%
中級レベル	1%	2%
上級レベル	5%	4%

日本語学習者作文コーパスでは 2 つのテーマにおいて、一方が初級 31 名、中級 100 名、上級 61 名であり、もう一方では、初級レベルはなしというように、それぞれのレベルのデータ数にばらつきがあるため、表 6 の結果については、異なる母語話者間、レベル間で単純に割合を比較するには問題がある。それぞれのレベルのデータ数をそろえると、結果の数値は変わってくる可能性がある。

「和語動詞（連用形）＋する」という形で産出された動詞は、「話す」「聞き取る」「さがす」「思う」「あやまる（謝る）」「感じる」「考える」であった。この中で「話す」については「話しする」という形が韓国語母語話者の上級レベルと中級レベルでそれぞれ 1 例ずつ見られた。

## 5. 考察

### 5. 1 誤った形が見られるレベルについて

KY コーパスの調査結果（表 1、2）を見ると、初級レベルで動詞を誤った形で使用している者は少ない。金庭（2003a）は、動詞の「異なり使用数をレベル別に見ると、初級では 1 人当たり 12.6 種類、中級では 52.5 種類、上級では 64.5 種類、超級では 86.2 種類とな」と分析している。よって、使用できる動詞の数が少ないことが、初級レベルで動詞を誤った形で使用している学習者が少ない理由であると考えられる。そして、中級レベルになると、誤った形を使用している者の割合が増える。これは使用する動詞数が初級レベルに比べ増えたからだと考えられる。上級レベルでも誤りが見られるが、超級レベルではまったく見られなくなる。

次に YNU 書き言葉コーパスの調査結果（表 3、4）を見ると、下位群と中位群に誤りが見られるが、その例は少ない。このコーパスでは調査対象者のうち、韓国語母語話者 30 名中 19 名が、そして、中国語母語話者 30 名のうち 26 名が日本語能力試験の 1 級、あるいは N1 に合格している。その点を考えると、作文は下位群、中位群、上位群とレベル分けされてはいるが、調査対象者は全体として高い日本語能力を有し



ているものと思われる。そのために誤りが少ないのではないだろうか。また、上位群では誤りが全く見られず、この結果は KY コーパスの結果と同様である。

日本語学習者作文コーパスの調査結果（表 5、6）については、前節で述べたように、各項目間を単純に比較することはできない。また、調査対象者のレベル分けの指標が異なるため、KY コーパスの各レベルと日本語学習者コーパスの各レベルを同じレベルとして横に並べることもできない。しかしながら、上級レベルにおいても産出される誤りであることは言えそうである。

以上のことから、「和語動詞（連用形）＋する」という誤った形は、上級レベルでも見られるが、レベル全体を通して眺めてみると、中ほどのレベルに多く見られる誤りであると言える。初級レベルから中級レベルになり、使用する動詞の数が急激に増えていくと、それに伴い誤りも見られるようになるが、さらにレベルが上がっていくと、使用する動詞の数は増えていくが、誤りは正しい形へと修正され、減少していくと考えられる。

## 5. 2 なぜ「和語動詞（連用形）＋する」という形が産出されるのか

### 5. 2. 1 日本語による質問文と、それに対する応答文からの影響

「和語動詞（連用形）＋する」という誤った形は、調査結果から見ると中国語母語話者に多く見られるが、韓国語母語話者、英語母語話者にも例は少ないが見られる誤りである。この原因の 1 つの可能性として考えられるのは、日本語教育では初級の早い段階で学ぶ次のようなやりとりである。

A：「日曜日 何を しましたか。」

B：「本を 読みました。 それから ビデオを 見ました。」

（「みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版」<sup>6</sup> 第6課）より）

質問文では「何をしましたか」というように、動詞は「する」が用いられる。その答えとしては和語動詞、漢語動詞のどちらを使っても構わないが、この質問に和語動詞を使って答える際、質問の「しましたか」につられ「しました」の「し」を、答えの「ました」の前に入れてしまう可能性が考えられる。つまり、漢語動詞の場合は「勉強しました」のように「○○しました」となるので問題はないが、例えば「作る」のような和語動詞の場合、「料理を作りました」の「作り」と「ました」の間に「しました」の「し」が入り「作りしました」としてしまう可能性が考えられる。本稿の冒頭

<sup>6</sup> 水越が勤務する日本語学校では、初級レベルの教科書は「みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版」、同「初級Ⅱ 第2版」を使用している。また、同教科書は多くの日本語教育機関で使用されていることから、本稿では同教科書を参考とした。

に挙げた「週末は働きます予定です。」という誤りも、「週末は何をしますか。」「週末は何をする予定ですか。」という質問文の中の「します」につられてしまった誤りである可能性がある。

### 5. 2. 2 名詞との関連

前節で挙げた「和語動詞（連用形）＋する」という形で産出された動詞は、「考える」「作る」「手伝う」「感じる」「さがす」「勧める」「話す」「入る」「持ち歩く」「聞き取る」「思う」「謝る」の12語であった。このうち「考える」「作る」「手伝う」「さがす」「話す」「入る」「思う」の7語は「みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版」及び同「初級Ⅱ 第2版」で提出される和語動詞であり、初級レベルの和語動詞と言える。さらに、「考える」「手伝う」「話す」については、「手伝う」は2名、「考える」は4名、「話す」は6名の学習者が「手伝いする」「考えする」「話しする」という形を産出していることから、「和語動詞（連用形）＋する」という形は初級レベルの和語動詞で産出されやすいようである。ここで、これら「手伝う」「考える」「話す」について見てみると、その名詞である「手伝い」「考え」「話」はいずれも日常的によく使われるものであるということが言える。そのことから、「手伝いする」「考えする」「話（し）する」という形は、学習者が「手伝い」「考え」「話」というそれぞれの名詞に「する」をつけて動詞として産出した可能性がある。

### 5. 2. 3 中国語母語話者による誤りについて

前節の結果を見ると、「和語動詞（連用形）＋する」という形を産出する学習者は、中国語母語話者に特に多いことがわかる。

日本語の動詞には、その語種や構造という観点から見ると、「和語動詞」と「漢語動詞」の2つがあり、「漢語動詞」は「漢語＋する」という形になる。中国語の動詞は表記面で見ると基本的に漢字1語、あるいは2語である。例えば、「考える」は中国語では“想”、「研究する」は“研究”である。日本語では「研究」は名詞、「研究する」は動詞であるが、中国語の“研究”は名詞としても動詞としても使われる。

中国語母語話者には日本の漢字を認識できるという利点があり、「研究」を動詞にするためには「する」を付けるということを理解するのはそれほど困難なことではないだろう。これについては特に問題はないと思われるが、例えば、日本語の和語動詞「考える」の場合、「研究」と同じように、漢字の部分の「考」を認識し、それに「する」を付け、動詞として「考えする」という形の動詞を産出している可能性があるのではないだろうか。漢語動詞の「〇〇する」という形を和語動詞にも当てはめているという過剰一般化の可能性が考えられる。

#### 5. 2. 4 韓国語母語話者による「話しする」について

日本語学習者が産出する「和語動詞（連用形）＋する」という形のうち、「話しする」に注目すると、(10)の中国語母語話者と(14)の英語母語話者の例以外の(13)(17)(20)(22)はすべて韓国語母語話者によるものである。

日本語の「話（はなし）」という名詞は、韓国語では“이야기 (iyagi)”である。そして、「話す」という動詞は、韓国語では名詞の“이야기 (iyagi)”に日本語の「～する」にあたる“～하다 (～hada)”をつけて“이야기하다 (iyagihada)”となる。つまり、この“이야기하다 (iyagihada)”は日本語に直訳すると「はなしする」となる。これを漢字で表記すると「話する」と「話しする」の2つが考えられるが、YNU 書き言葉コーパスと日本語学習者作文コーパスで見られた(17)(20)(22)では、すべて「話しする」の形で表記されている。学習者が「話し」を名詞としてとらえており、名詞の「話」を「話し」と誤って表記している可能性も考えられるが、「話しする」という誤った形が産出されるのは母語からの負の転移であると思われる。

#### 6. まとめと今後の課題

本稿では日本語学習者が産出する「和語動詞（連用形）＋する」という誤った形について、3つのコーパスを対象とした調査結果と考察を述べた。それをまとめると以下ようになる。

- ① 学習者のレベルを初級、中級、上級と大まかに分けたとすると、誤った形は特に中級レベルで多く見られる。また、中国語母語話者に多く観察される。
- ② 謝った形を産出する原因は、初級教科書の中にある質問文とそれに対する応答文からの影響の可能性が考えられる。
- ③ 誤った形で産出される和語動詞は初級レベルで学習する和語動詞が多く、その中でも「話す」「考える」「手伝う」はその割合が高い。そして、それらの名詞である「話」「考え」「手伝い」に「する」をつけて「話（し）する」「考えする」「手伝いする」という誤った形が産出された可能性が考えられる。
- ④ 中国語母語話者が誤った形を産出する原因は、漢語の名詞に「する」をつけて動詞化することの過剰一般化の可能性がある。
- ⑤ 韓国語母語話者が産出する「話しする」は、母語からの負の転移であると考えられる。

今回の調査では、英語母語話者のデータはKYコーパスのみであり、英語母語話者による作文データは含まれていない。また「和語動詞（連用形）＋する」という形が、中国語母語話者、韓国語母語話者以外でも観察されるのかどうか、英語母語話者の作

文も含め、他の外国語母語話者のデータも使い、調査する必要がある。さらに、出現傾向をより正確に見ていくためには、調査対象者が同じ指標に沿ってレベル分けされているデータを使用する必要がある。以上を今後の課題としたい。

#### 〈使用コーパス〉

##### KY コーパス

日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス

日本語学習者作文コーパス (<http://sakubun.jpn.org>)

#### 〈参考文献〉

金澤裕之編 (2014)『日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス』ひつじ書房

金庭久美子 (2003a)「日本語学習者の動詞の使用状況」『日本語教育方法研究会誌』10 (1)  
pp.40-41 日本語教育方法研究会

金庭久美子 (2003b)「韓国語母語話者の動詞の使用状況」『横国留学生センター紀要』10  
pp.53-66 横浜国立大学

鎌田修 (2009)「ACTFL-OPI における“プロフィシェンシー”」『プロフィシェンシーと日本語教育』pp.3-20 ひつじ書房

鷺見幸美 (2014)「中国語を母語とする日本語学習者の和語動詞の使用 ―KY コーパスの分析―」『言語文化論集』36 (1) pp.65-79 名古屋大学

#### 〈ウェブサイト〉

日本語学習者作文コーパス (<http://sakubun.jpn.org>) (最終アクセス日 2015 年 1 月 18 日)

#### 〈教科書〉

『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版』(2012) スリーエーネットワーク

『みんなの日本語 初級Ⅱ 第2版』(2013) スリーエーネットワーク

